令和４年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立桜木中学校 ）　　学校番号　２２３

【様式】

目指す学校像	学ぶ喜びのある学校　生徒の夢をはぐくむ学校　生き生きと活動する学校　保護者・地域とともに活動し信頼される学校

重点目標	
	１　生徒・保護者の期待に応える質の高い教育活動を展開し、生徒の学力と体力の向上に努める ２　生徒が安心して学ぶことのできる教育環境づくりに努める ３　保護者・地域とともに活動し信頼される学校づくりに努める ４　質の高い教育活動を支える教職員の資質能力向上に努める

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和　５年　２月１６日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	（現状） ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、数学ともに全国、市平均と比べ良好な結果である。 ○平成３１年度の市の学習状況調査において、学習に対する関心・意欲・態度に関する質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、市平均と比べ国語、社会、Ｇ・Ｓでやや高く、数学、理科でやや低い。 （課題） ○学力の向上に対して、保護者、地域共に特に関心が高く、学力と体力のさらなる向上が課題である。 ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に国語の「書くこと」及び数学の「関数」等について全国平均をやや下回っている。 ○学校評価の結果では「自ら進んで積極的に発言したり、発表したりしている」に対する生徒の肯定的な回答がやや低く、「主体的・対話的で深い学び」への取組が必要である。	・ＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学び」や、個別最適な学びの実現	①「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」を実現するためにＩＣＴを活用した公開授業を行う。 ②「スタディサプリ」を活用する授業を各単元に位置付ける。	①ＩＣＴを活用した公開授業を１回以上行ったか。 ②「スタディサプリ」を活用する授業を各単元で１回以上行うことができたか。	①全教員がＩＣＴを活用した公開授業を１回以上行った。 ②「スタディサプリ」を活用する授業を各単元で１回以上行った。	A	○ＩＣＴの使用を目的にするのではなく、あくまでも手段として活用していくための研究が引き続き課題となる。 ○「スタディサプリ」のさらなる活用を検討していく必要がある。	・ＩＣＴを使った授業は多様な意見を交換できる等とてもよい取組であり、主体的・対話的で深い学びにつながると考える。今後更に活用の幅が広がることを期待する。 ・「スタディサプリ」を活用することで家庭でも課題に取り組むことができ、個別最適な学びの実現が期待できると考える。 ・「ＳＴＥＡＭＳ　ＴＩＭＥ」を実施することで、探究的な学び、協働的な学びにつながると考える。次年度もさらなる効果に期待したい。
		・「ＳＴＥＡＭＳ　ＴＩＭＥ」の確実な実践による探究的な学びの実現	①「ＳＴＥＡＭＳ　ＴＩＭＥ」でＰＢＬとプログラミング的思考を育む内容を中心に、探究的な学びを行う単元を創り出し、実施する。 ②生徒が協働的に学び、試行錯誤しながら、現代的な課題の解決を目指すＳＴＥＡＭＳ　ＴＩＭＥ を展開する。	①学校自己評価に係る教職員アンケートにおいて、「生徒の協働的な学びを実践することができた」という項目の肯定的な回答の割合が８０％以上となったか。 ②ＳＴＥＡＭＳ　ＴＩＭＥ 実施後の生徒アンケートにおいて、「教科の学習に対する関心が高まった」と回答する生徒の割合が８０％以上となったか。	①教職員アンケートで肯定的な回答の割合が８０％以上となった。 ②生徒アンケートで肯定的な回答の割合が８０％以上となった。	B	○「ＳＴＥＡＭＳ　ＴＩＭＥ」でＰＢＬとプログラミング的思考を育む内容を中心に、探究的な学びを行う単元を創り出し、実施することができたが、内容については今後検討し、さらなる充実を図る必要がある。	
2	（現状） ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、市平均を上回った。 ○昨年度、スポーツ振興センターに申請した医療機関の受診は３６件であった。 （課題） ○コロナ禍によるストレスや不透明感、生活の変化が生徒の心身に与える影響が大きいことから、今後も、生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である。 ○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、生徒が自ら危険を予測したり、回避したりする力をはぐくむことが課題である。 ○感染症対策に重点を置いた学校生活のさらなる見直し、改善が課題である。	・いじめや不登校に係る事案の未然防止、早期発見・早期支援、再発防止のための組織的な体制づくり	①事案に応じて必要な担当者を構成員とする柔軟なケース会議を行う。 ②情報端末を活用して生徒向けアンケートや面談等の記録を蓄積し、生徒一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。	①学校自己評価に係る教職員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が９０％以上となったか。 ②学校評価に係る保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が９０％以上となったか。	①教職員アンケートで肯定的な回答の割合が９０％以上となった。 ②保護者アンケートで肯定的な回答の割合が９０％以上となった。	B	○肯定的な回答を多く頂いたが、満足することなく、常にアンテナを高くし、早期発見・早期支援に努め、組織的に対応していく必要がある。 ○アンケート結果の記録の蓄積について検討していく必要がある。 ○不登校生徒が多い現状がある。個に応じた対応を検討していく必要がある。	・これからもアンテナを高くし、生徒とのコミュニケーションを密にすることで、生徒の些細な変化に気づいてほしい。また、生徒、保護者に対して迅速に対応して頂いているので、引き続きお願いしたい。 ・不登校生徒への支援は重要な視点であると考える。学習室の活用を図るなど、個別最適な学びに向けた学習環境の充実を図って頂きたい。 ・生徒自身が安全について考えられるような取組に期待したい。とりわけ、防災教育については一層の充実が必要ではないかと考える。
		・安全な生活の実現に主体的に取り組む生徒の育成に向けた学校行事の充実	①校内におけるケガの発生場所、件数、原因などを分析し、生徒と結果を共有できるようにする。 ②感染症対策に重点を置いた設備の充実を図る。	①学校評価に係る生徒アンケートに「以前より安全を考えて行動するようになった。」と回答する生徒の割合が８０％以上となったか。 ②学校自己評価に係る教職員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が８０％以上となったか。	①生徒アンケートで肯定的な回答の割合が８０％以上となった。 ②教職員アンケートで肯定的な回答の割合が８０％以上となった。	A	○校内でのケガについては、依然として多いので、今後の課題である。また、コロナの感染状況や、ガイドラインを踏まえた対策を講じる必要がある。次年度への課題である。 ○全生徒が意識を高められるような取組の検討が必要である。	
3	（現状） ○今年度、本校学校運営協議会を立ち上げ、生徒を地域全体で育てていくことを共有し、コミュニティ・スクール実施の一歩を踏み出すところである。 （課題） ○今年度は、地域ぐるみで本校生徒をはぐくむ体制をつくるため、本校教育活動の質的向上を図るためのＰＤＣＡサイクルが機能するように学校運営協議会を運営していく。 ○学校運営協議会をはじめとする地域住民等からの意見を積極的に取り入れ、本校教育活動への地域住民等の参画意識を高める。	・学校運営協議会との熟議を通じた地域住民、保護者等との信頼関係の深化	①学校運営協議会を年３回設定する。 ②学校運営協議会委員に教育活動を公開する場を年３回以上設定する。 ③本校ＨＰ内に、学校だよりをはじめ、目指す生徒の姿等を広く、家庭、地域と共有できるようにする。また、新たに学校運営協議会及びＳＳＮの情報を発信するページを作成する。	①学校運営協議会を年３回設定する。 ②学校運営協議会委員に教育活動を公開する場を３回以上設定できたか。 ③本校ＨＰを毎月更新できたか。	①年３回実施した。 ②体育祭、合唱祭、卒業式と、３回公開した。 ③本校ＨＰを月１回以上更新した。	A	○昨年度よりも教育活動を公開する場を増やすことができたが、授業参観を設定することができなかった。次年度はコロナの状況を見極めながら、保護者、地域への授業参観の場を設定したい。 ○ＨＰの更新は月１回以上更新できたが、それ以外でのネットでの情報発信の方法を模索する。	・縮小でも行事等の実施ができたことは、生徒にとって大きな経験であったと思う。今後のコロナの状況にもよるが、生徒の成長した姿を見る機会を設けてもらいたい。また、地域としての協力体制を強化し、さらなる連携を図りたい。 ・桜木中学校の「求める生徒像・学校像・教師像」の具現化に向けてこれからも生徒が充実感、自己肯定感を高められるような教育活動を行ってほしい。
		・「求める生徒像・学校像・教師像」の具現化に向けた学校評価を基盤とする学校経営の改善・充実	①「求める生徒像・学校像・教師像」の具現化に向け、学校評価を再構築する。	①学校評価に係る教職員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が８０％以上となったか。	①教職員アンケートで肯定的な回答の割合が８０％以上となった。	B	○「求める生徒像・学校像・教師像」の具現化に向け、学校評価を再構築したが、さらに生徒が充実感、肯定感を高く持てる教育活動を目指したい。	
4	（現状） ○今年度から「お互いのよさを認め合う生徒の育成　～教育活動全体を通じた人権教育の実践～」という研究主題で研究を進めていく。 ○新たな学びのスタイルの中心となる、情報端末をはじめとしたＩＣＴの活用方法について、エヴァンジェリストが中心となり研修を重ねている。 （課題） ○相手を思いやり、お互いのよさを認め合う力の育成が課題である。 ○ＩＣＴの活用について、教員間で取組の差がみられる。	・教育活動全体をとおした計画・組織的な人権教育の在り方の研究による人権意識の高揚 ・「教える」から「学習者が主体的に学ぶ」授業への転換を目指したＩＣＴ活用能力の向上	①学校課題研修主任を中心に組織的に研修会を行い、人権教育の視点を意識した授業づくりに努める。 ②ＩＣＴを活用した実践を「桜木中学校ＩＣＴ活用プラットフォーム」で共有する。	①学期に２回以上、人権教育の視点を意識した授業に関する研修を行ったか。 ②「桜木中学校ＩＣＴ活用プラットフォーム」を、学期に１回以上活用することができたか。	①学期に２回以上研修を行った。さらに教員同士でお互いに授業を参観する機会を設けた ②ＩＣＴを活用した実践を共有した。	B	○人権教育の視点を意識することも踏まえつつ、ＩＣＴを活用した授業の実践を積み重ねていくことに課題がある。ＩＣＴを使うことを目的にするのではなく、あくまでも手段として活用していくための研究が引き続き課題となる。	・人権教育の視点を踏まえた授業は今後も積極的に行ってほしい。ＩＣＴ含め、先生方の授業力向上が、生徒の学力と体力の向上につながると考える。働き方改革を尊重しつつ、今後も引き続き期待しているところである。

令和５年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立桜木中学校 ）　　学校番号　２２３

【様式】

目指す学校像	学ぶ喜びのある学校　生徒の夢をはぐくむ学校　生き生きと活動する学校　保護者・地域とともに活動し信頼される学校

重点目標	１　生徒・保護者の期待に応える質の高い教育活動を展開し、生徒の学力と体力の向上に努める ２　生徒が安心して学ぶことのできる誰一人取り残さない教育環境づくりに努める ３　保護者・地域とともに活動し信頼される学校づくりに努める ４　質の高い教育活動を支える教職員の資質能力向上に努める

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	（現状） ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、数学、理科、社会と全国、市平均と比べ良好な結果である。 ○令和４年度の全国学力・学習状況調査において、「国語・数学・理科の勉強は好きですか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、県平均を大きく上回った。 ○「ＳＴＥＡＭＳ　ＴＩＭＥ」でＰＢＬとプログラミング的思考を育む内容を中心に、探究的な学びを行う単元を創り出し、実施している。 （課題） ○学力の向上に対して、保護者、地域共に特に関心が高く、学力と体力のさらなる向上が課題である。 ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に国語の「書くこと」等について全国平均をやや下回っていることから「主体的・対話的で深い学び」への取組が必要である。 ○「ＳＴＥＡＭＳ　ＴＩＭＥ」の充実による探究的な学び、協働的な学びの実施。	・ＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学び」や、個別最適な学びの実現	①「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」を実現するためにＩＣＴを活用した公開授業を行う。 ②「スタディサプリ」を含めたＩＣＴを活用する授業を各単元で行う。	①全ての教員がＩＣＴを活用した公開授業を１回以上行う。 ②「スタディサプリ」を含めたＩＣＴを活用する授業を各単元で１回以上行う。				
		・「ＳＴＥＡＭＳ　ＴＩＭＥ」の実践による、より探究的な学び、協働的な学びの実現	①ＳＴＥＡＭＳ担当を中心に研究を行い、３年間を見通した計画を立てる。 ②生徒が協働的に学び、試行錯誤しながら、現代的な課題の解決を目指す「ＳＴＥＡＭＳ　ＴＩＭＥ」を展開する。	①学校自己評価に係る教職員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合を８０％以上とする。 ②「ＳＴＥＡＭＳ　ＴＩＭＥ」実施後の生徒アンケートで「教科の学習に対する関心が高まった」と回答する生徒の割合を８０％以上とする。				
2	（現状） ○全国学力・学習状況調査において、「先生はあなたのよいところを認めてくれる」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、県平均を大きく上回った。 ○昨年度、スポーツ振興センターに申請した医療機関の受診は５９件であった。 （課題） ○コロナ禍によるストレスや生活の変化が生徒の心身に与える影響が大きいことから、今後も、生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である。 ○個別最適な学びをより充実させるための環境整備が課題である。 ○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、生徒が自ら危険を予測したり、回避したりする力をはぐくむことが課題である。	・いじめや不登校に係る事案の未然防止、早期発見・早期支援、再発防止のための組織的な体制づくり	①個に応じた対応をするための環境の充実化を図る。 ②情報端末を活用して生徒向けアンケートや面談等の記録を蓄積し、生徒一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。	①学校自己評価に係る教職員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合を９０％以上とする。 ②学校自己評価に係る保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合を９０％以上とする。				
		・安全な生活の実現に主体的に取り組む生徒の育成	①委員会活動等を中心に、校内におけるケガの発生場所、件数、原因などを分析し、生徒と結果を共有できるようにする。	①生徒アンケートで「以前より安全を考えて行動するようになった。」と回答する生徒の割合を８０％以上とする。				
3	（現状） ○昨年度、本校学校運営協議会を立ち上げ、生徒を地域全体で育てていくことを共有し、コミュニティ・スクールの実施がスタートしたところである。 （課題） ○今年度は、地域ぐるみで本校生徒をはぐくむ体制をつくるため、本校教育活動の質的向上を図るためのＰＤＣＡサイクルが機能するように学校運営協議会を運営していく。 ○学校運営協議会をはじめとする地域住民等からの意見を積極的に取り入れ、本校教育活動への地域住民等の参画意識を高める。	・学校運営協議会との熟議を通じた地域住民、保護者等との信頼関係の深化	①学校運営協議会を計画的に実施する。 ②教育活動を積極的に公開する。 ③生徒の活動や学校の様子等を、家庭、地域に発信できるようなＨＰを充実させる。	①学校運営協議会を年３回設定する。 ②学校運営協議会委員、保護者、地域に教育活動を公開する場を年３回以上設定する。 ③ＨＰを毎月更新する。				
		・「求める生徒像・学校像・教師像」の具現化に向けた学校評価を基盤とする学校経営の改善・充実	①「求める生徒像・学校像・教師像」の具現化に向け、学校評価を再構築する。	①学校自己評価に係る教職員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合を８０％以上とする。				
4	（現状） ○昨年度から「お互いのよさを認め合う生徒の育成　～教育活動全体を通じた人権教育の実践～」という研究主題で研究を進めている。 ○新たな学びのスタイルの中心となる、情報端末をはじめとしたＩＣＴの活用方法について、エヴァンジェリストが中心となり研修を重ねている。 （課題） ○相手を思いやり、お互いのよさを認め合う力の育成が課題である。 ○ＩＣＴの活用について、教員間で取組の差がみられる。	・教育活動全体をとおした計画・組織的な人権教育の在り方の研究による人権意識の高揚 ・「教える」から「学習者が主体的に学ぶ」授業への転換を目指したＩＣＴ活用能力の向上	①学校課題研修主任を中心に組織的に研修会を行い、人権教育の視点を意識した授業づくりに努める。 ②ＩＣＴを活用した実践を「桜木中学校ＩＣＴ活用プラットフォーム」で共有する。	①学期に２回以上、人権教育の視点を意識した授業に関する研修を行う。 ②「桜木中学校ＩＣＴ活用プラットフォーム」を、学期に１回以上活用する。				